

2023年12月1日

フュージョンエネルギーに関する  
文部科学大臣とエネルギー担当欧州委員の共同プレス声明（仮訳）

文部科学省と欧州委員会は、2007年以來、ITER計画や幅広いアプローチ活動（BA活動）を通じて、核融合炉の実現に向けた日欧共同の研究を長年に亘って推進してきた。これらの活動は、本日、日本の茨城県に位置する世界最大かつ最先端のトカマク型核融合炉 JT-60SA の運転開始に伴って、最高潮に達した。

この出来事は、文部科学省及び欧州委員会にとって、ITER計画及びBA活動を始めとするフュージョンエネルギー分野における長年に亘る強固な協力関係を再確認し、フュージョンエネルギー開発に向けた国際的な取組を支持するための機会となった。

核融合は、特にフュージョンエネルギーの生成によって二酸化炭素が発生しないため、温室効果ガスの排出量正味ゼロへの道筋において重要な技術である。核融合反応は、燃料供給や電源を停止することによって停止し、本質的に安全である。長寿命の高レベル放射性廃棄物が発生しない。このような特徴を有することから、核融合はエネルギー供給と環境問題に同時に対処できる次世代エネルギー源の一つといえる。

この理解の下、文部科学大臣及びエネルギー担当欧州委員は、JT-60SAの建設及び運転のように、多くの有益な成果を生み出してきた協力である、フュージョンエネルギーの実現を確実にするためのBA活動を推進するというコミットメントを再確認した。

さらに、両者は、ITERや将来の核融合炉の設計及び建設に役立つ画期的な研究成果を創出し続けるため、JT-60SAの技術的高度化及び運転を支援する意思を再度表明した。

最後に、両者は、若手科学者及び技術者を訓練するとともに、将来フュージョンエネルギーを実現するために必要な人材を育成するために、2023年9月に成功裡に開校したJT-60SA国際核融合スクール（JIFS）を共同で強化していく意思を表明した。

文部科学大臣  
盛山 正仁

エネルギー担当欧州委員  
カドリ・シムソン